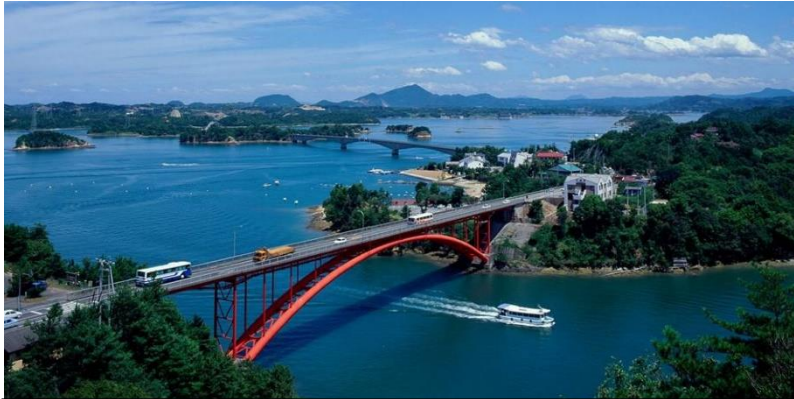


自然の営みに自ら肌で触れ、動植物と共に呼吸をして
環境問題を考えて欲しい。

海にも入らず川遊びもせず、森で樹木の種類も知らず、鳥の鳴き声さえ判別できずに、環境問題を語るなんてナンセンスだと思う。

30歳の後半、大阪で事業に失敗、故郷天草で365日、小舟で釣りをして過ごした。365日間！ 一日も欠かさずだ。



※この辺りの海は、どこで何が釣れるかは全部知っています。遠くに見える山が雲仙岳です。

天草は多島海で島ばかりだ、台風の時でも、島の裏側は静かなものだ。アイナメ、タイ、むつ、カサゴ、クロダイ、タコなどが年中釣れる。

3ヶ月程で「どの位置に車ほどの岩が海底に有るとか、海底の瀬が何処まで続い

ているとか、周辺の海底の様子が海図を見なくても、解る様になった。100尾釣ったら帰り、妻が近所に配る。そんな毎日だった。私は、電気王の松永翁の真似をしたのだ。

海を朝から晩まで眺めて、大阪での混濁した思考や垢を洗い流したかった。

ある時、漁業組合長に夕食に呼ばれた。海上自衛隊大村教育隊の司令をしていた方で、黒田さんと言ひ。硬骨漢、人格者だった。庭先でフグを捌き刺身を造っている。その横には可愛がっている猫が居る。黒田さんは猫にフグの内臓を与えた。猫は猛毒とも知らず食べた。「黒田さん！ それでは猫が死ぬではないか？」私はなじった。彼は笑い「小田君、明日朝来てくれ面白いものを見せる」と言うので翌朝黒田さんを訪ねた。気になっていた猫は元気よく遊んでいる。黒田さんが庭の一面に連れて行き「これを見ろ」と、猫が吐き出した汚濁物を見せた。注意深く見た、汚物の中に青い葉パが入っている。彼岸花の葉だ。樹液が肌に付けば「かぶれる」と言われている。

「この葉パを喰えば吐き出せる」猫は本能で知っていたのだ。

熊本に神水苑と云う細川氏の別邸跡がある。300坪ほどの池があり、50 cm, 1 mもの大きい錦鯉が群れをつくり泳いでいる。

人が岸边に行けば、餌をくれると思ひ、沢山集まって来ていた。久しぶりに池端に行ったところ、パーッと音を立てて全ての鯉が散り、姿を隠した。

何故だろうとホテルの者に聞いたところ、「ボーイがビニール紐に大きな釣り針を結び、パン切れを刺して投げ込んだところ、大きな鯉が喰いつき、しばらく綱引きの様な事をしたそうだ。

鯉は紐を切って逃げた」と言う。以来、鯉は人の姿を見れば逃げるようになったそうだ。「猫、鯉」どうして危険を知るのだろうか？

人間も元来自己防衛本能があったが、科学に頼りすぎて、本能が劣化したのだと思う。田舎育ちの私は、残留農薬が有る野菜や腐敗が進んでいる食品には、確実に気付く才能が有るのだが。

環境問題は、自然の営みが解らねば、大変な間違いを犯すのではなかろうか？ 今日の話は全て私の実体験談です。皆様のペットの猫も同じでしょうか？

※3月1日、水中の微細プラスチック、海洋での原油流出事故対応技術を、動画で公開します。

2、Feb、2021 小田兼利